

このコーナーでは、町にゆかりのある歴史人物とその結び付きなどをシリーズで紹介しています。執筆者は町史編さん委員の佐藤仁志さん（豊間根・七〇）です。

喜伝治は、屋号伝蔵屋福士重七の長男として安政三年（一八五六）、大沢村に生まれた。若者になった喜伝治は漁師になり、沿岸において漁労に励んだ。

付けて大沢に帰ってきた。その後、彼は漁船を所有し、知識や拓、大謀網を建てた。明治三十

喜伝治が少年のころ、山田湾沖において彼の乗った鯉船が漂流した時、陸方向を知らせたのが鵜の鳥であった。

下北半島大謀網漁場開拓者

福士喜伝治

五年、網は大漁に次ぐ大漁を重ね、五月には鮪漁獲の万本祝をするほどの豊漁だった。喜伝治の評判は広まり、明治四十年には大畑町佐助川漁場を探索し漁場を選定、網を建て大漁の成果を上げた。



大畑町にある大漁記念碑「八大龍王」。裏面に「佐助川は最良無比の漁場、福士喜伝治の選定による」旨刻まれている＝鈴木弘一著「炉辺 大沢冬の夜語り」より＝

漁師たちは、喜伝治の大謀網に対する情熱、観察力に感嘆した。彼は魚道の探索選定に長け、漁場の開拓に卓越した能力

祈願して行った。山林火災によって神社が焼失したことを知った喜伝治は心を痛め、友人の大沢の木工棟梁清作屋の松太郎の協力を得、明治四十五年、神社を建立し奉納した。また、菩提寺大沢の南陽寺に大般若経六百巻を寄贈した。心を満たした喜伝治は、その後下北半島での大謀網漁の拡張に努めていたが、大正三年八月、惜しまれながら波瀾万丈の生涯を終えた。五十八歳であった。

1月10日は「110番の日」

緊急通報は慌てず正確に



一月十日は「一一〇番の日」です。この番号は、事件・事故が起きたときの緊急通報の専用ダイヤル。警察に通報する際は、▼何が あったか▼いつ▼どこで▼どんな様子か——を慌てず、正確にお伝えください。
緊急を要しない相談は「#九一一〇」の利用を
警察では、緊急を要しない相談を受け付ける総合相談電話として、全国共通の専用ダイヤル「#九一一〇」を設置しています。行方不明者の捜索、運転免許に関する問い合わせなど、緊急時以外のことで相談する際にご利用ください。
▽問い合わせ 宮古警察署 山田交番（☎82-2155）へどうぞ。